



清里地区まちづくりアンケート調査結果の報告

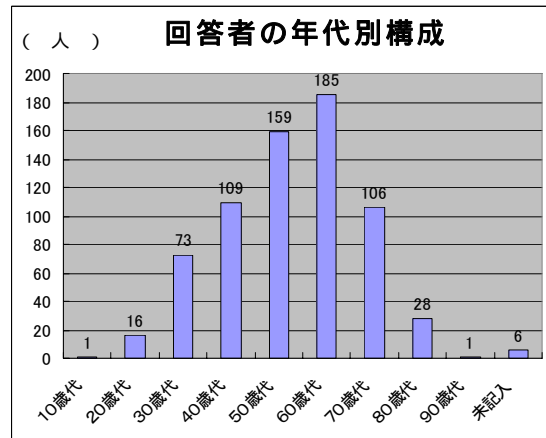
清里まちづくり協議会長 蜂 巣 昇 三

過日はお忙しいなか、清里地区の多くの皆様にご理解とご協力をいただき、まちづくりアンケート調査が実施出来ましたことを、心から感謝申し上げます。このほど、お世話になりましたアンケート調査の結果がまとまりましたのでご報告いたします。清里まちづくり協議会といたしましても、清里地区の皆様方からいただいた貴重なご意見を今後の活動に活かしてまいりたいと存じます。皆様方とともに住み良いまちづくり、夢が持てるまちづくりを推進してまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

調査結果のあらまし

清里地区内の全世帯に自治会長を通じ、アンケート調査用紙を配布し、調査協力をお願いしました。アンケート調査用紙の回答世帯数は684世帯、回答率は63.3%でした。統計的には清里地区にお住まいの方々の意向を正確に把握出来る結果になりました。

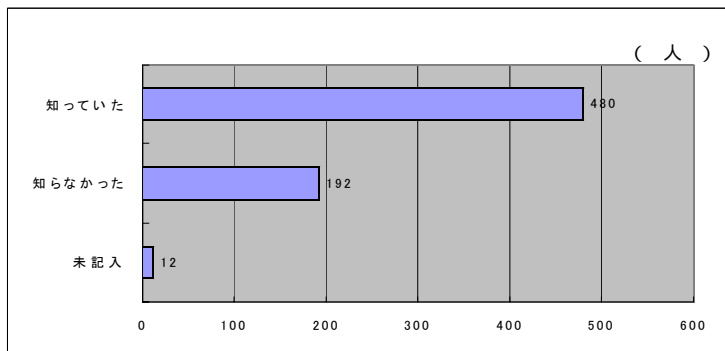
調査結果のあらまし	
調査世帯数	1,080 世帯
回答世帯数	684 世帯
回答率	63.3 %



(説明)

回答された方の年代別構成を見ると60歳代を筆頭に50歳代、40歳代、70歳代となっており、各世代が参加した調査になっています。清里地区内の各年代の意見が反映されたものになっていますといえます。

(質問1) あなたは清里地区がまちづくり活動に取り組んでいることをご存知でしたか。



(説明1)

清里地区の70.2%の方々がまちづくり活動に取り組んでいることを知っています。28.1%の方々が「知らない」と回答しています。まちづくりは地区住民が一致団結して取り組むことが基本ですのでご支援、ご協力をお願いいたします。

(説明2)

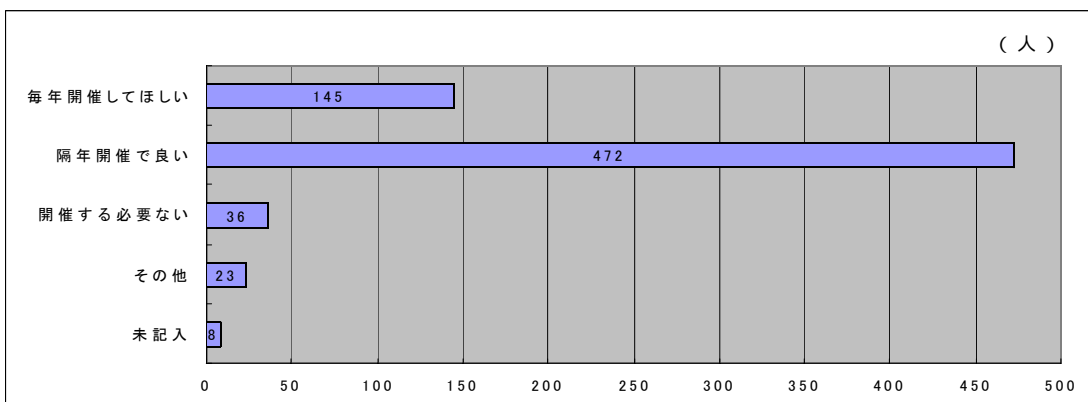
清里地区は十数年前まで「清里地区納涼祭」として開催された歴史があります。前橋市長から「まちづくり事業」の指定を受け、検討した結果、「心豊かで活力あるまちづくりをしよう」という共通テーマが設定されました。

地域の伝統的な文化、行事の見直しを進めるなかで「清里ふるさと祭」と改称して、平成19年度から再開され、今年度が第2回の開催になりました。

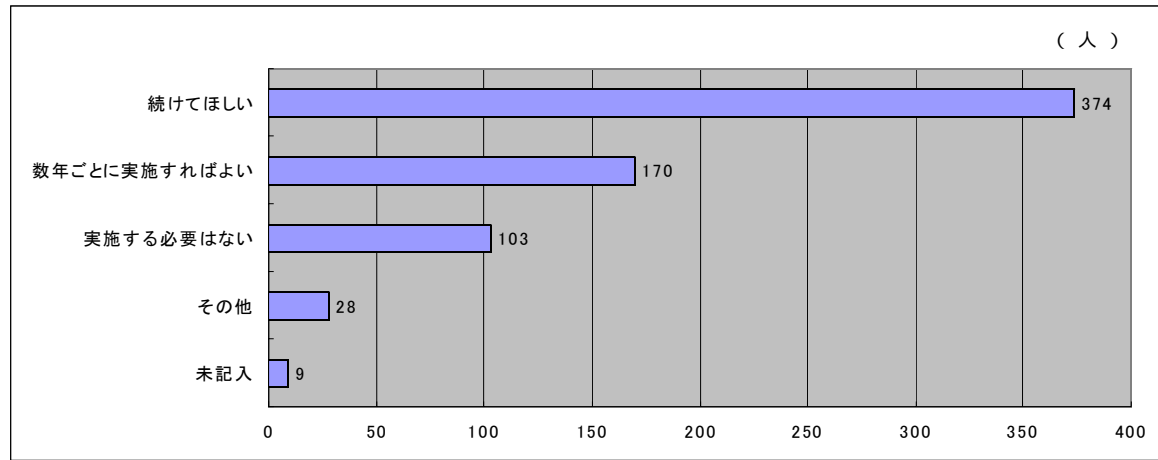
調査結果を見ると、「隔年開催」を希望が約69.0%になっています。「毎年開催」が21.2%、「地区行事として開催する必要はない」が5.3%になっています。

意見として、「祭があれば人が集まる 人と人とのつながりが出来る 人の和、輪が出来る」、「各家庭で抱える諸事情も異なりますのでたいへんな行事(準備など)だと思います」が寄せられています。

(質問2) 清里ふるさと祭を隔年開催していることをどう思いますか。



(質問3) 清里ふるさと祭の時に清里花火を実施していますがどうお考えですか。

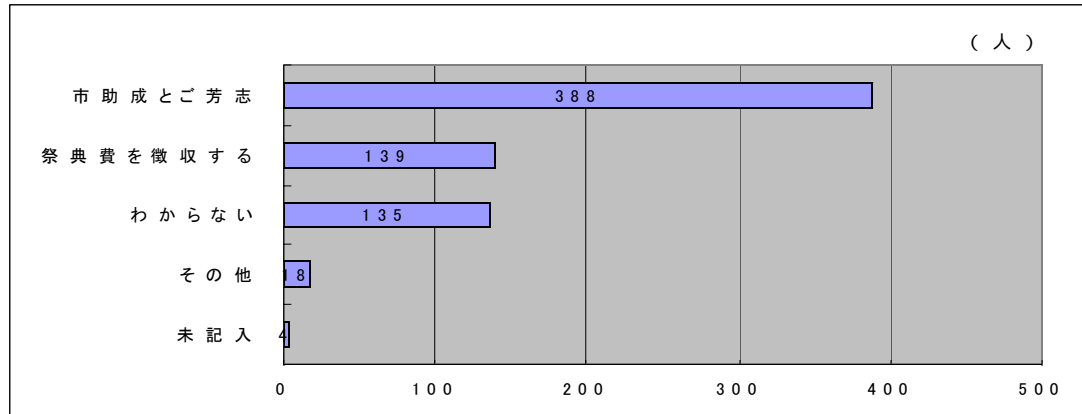


(説明3)

清里花火は十数年前まで開催されていた「清里地区納涼祭」の時も打ち上げられていました。「清里ふるさと祭」の復活に際しても、清里地区内の事業所、個人有志から協賛を募り、「清里花火」として打ち上げることになりました。清里地区の方々の声とすれば、「美しいので続けてほしい」と「数年ごとに実施すればよい」を合わせると79.5%、約8割の方々が希望しているといえます。「費用もかかるので実施する必要はない」が15.1%になっています。

意見として、「花火が不可欠ならば花火で良いがもっと違ったことで祭りが盛り上がるならばよれも良い。花火にこだわることはない」、「寄付している人数が町によって違いすぎるので、全戸できるようにすればこの先も行って良いが違いが大きければ実施しなくて良い」、「他の地区の人が良く見え美しかったという声が聞こえました」、「当日の花代協力者の名前も全戸に配布してほしい」、「花火とっても楽しみです。出来る限りの寄付をしたい」、「余裕があれば続けてほしい」などの声も寄せられています。これらの意見も参考にしながら、清里まちづくり協議会としても検討していきたいと存じます。

(質問4) 清里ふるさと祭を開催するに当たり費用がかかりますが、その資金拠出についてどうお考えですか。



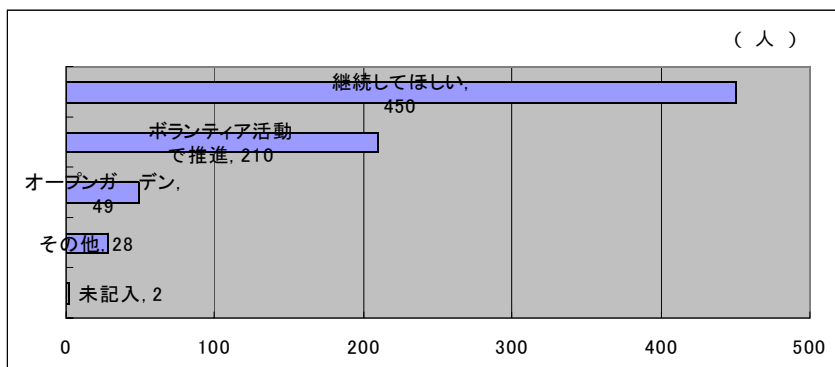
(説明4)

「清里ふるさと祭」の開催については、清里地区に根付いた伝統行事として定着することを希望する人は多いが、その資金の拠出については、「市からの助成金と関係者のご芳志の範囲内で」が56.7%と約半分以上が従来の方法での開催を希望しています。「毎戸から祭典費としての徴収」は20.3%と約2割強の方が祭典費の徴収には反対しているといえます。

その他、「わからない」、「その他」の方の意見としては、「花火費用を他の内容充実に当てたらどうか」、「助成金の範囲内で行えば良い」、「お金のことなので協議してほしい」、「住民に無理のかからない程度の徴収」、「子どもたちの地域での思い出づくりには大事なこと」、「全体の祭はなくしてはいけない。日にちも考慮してほしい。子どもが帰って来るお盆とか」、「手ぬぐいとティッシュは必要ない」などの意見が寄せられました。

「清里ふるさと祭」の資金の拠出の仕方、また財政難の折ですので、助成金が打ち切られた場合にはどうするのかも踏まえ、清里まちづくり協議会でも検討していきたいと思えます。

(質問5) まちづくり活動の一環で花いっぱい運動を実施していますが、どうお考えですか。



「花いっぱい運動」先進地の取り組みを視察
(平成21年5月12日 鴻巣・深谷市)

(説明5)

清里地区内が花で美化された「花いっぱい運動」に65.7%の方々が賛同されています。その街角や道路脇、空地の花の整美をどう進めるかが課題です。「花愛好者によるボランティア」活動としての推進を希望する方々が30.7%となっています。また、「立派な庭園、花園を持つ家庭のオープンガーデン」としての開放を希望する方も7.2%に達しています。「花いっぱい運動」には多くの方々から意見が寄せられています。

「清里を花いっぱいにするには大きな夢ですが各戸で一鉢でも多く花を育てていただき、住民の花に対する意識が高くなれば、自然と運動は広がっていきます。年月をかけて花好きの人を協力者として地域に花を育てる楽しみの輪を広げる」、「休耕田の利用は出来ないでしょうか」、「ボランティア活動により地域住民の交流が増えることは望ましいこと」、「種を取って希望者に分配するなどして、さらに活動を広げると良いと思う」、「犬の散歩の時のふんも片付けられない人がいるのはどうかと思う。町を美しくするならまず基本から」など。

次号のお知らせ
ご次たア
了号結
た承で果ケ
しくお報「
まだ知告ト
さら(にお
るせ質寄
よい問寄
うた6せ
しかいた
おまらだ
願す)い
いは、